草創期の農学部と安城キャンパス/農学部誕生への道

三、草創期の農学部と安城キャンパス

◆山積する課題
ようやく誕生した農学部と安城キャンパスですが、創設された当初はあまり実態があるとは
いえない状況でした。前章で見たように、教員は最初四人だけでしたし、新入生も最初の二年
間は豊川分校や名古屋市の瑞穂分校で教養課程を修めなければならないので、農学部で講義を
受けることはありません。
しかも、愛知学芸大学安城分校の岡崎への移転が完了するまでの間は、安城キャンパスも思
うようには使えませんでした。そのため当初の農学部事務室は、名城キャンパス(本部・文学
部・教育学部・法学部など)の附属図書館内にありました。教員の研究室も、東山の理学部、
高蔵の工学部、安城の愛知県農事試験場などに「間借り」していたのです。
そのほかにも課題は山積していました。実は、文部省の農学部設置認可には、次のような条
件が付けられていたのでした。

2	5
12	J

<ol> <li>一九五二(昭和二七)年度中に図書館を建設するように計画を立てること。</li> </ol>
② 研究用農場を近接地に設けること。
③ 図書、標本機械器具の整備充実をすること。
④ 学科の増設、既設学科の変更については、当分の間大学設置審議会に協議すること。
⑤ 教員組織については、これが充実するまでは大学設置審議会に協議すること。
⑥ 二年以内に必要な整備拡充をおこなって、大学としての完成を期すること。
これらの事項については大学設置審議会に報告し、必要があれば同審議会が審査するという
<b>らった。</b> 要するに、一人前の学部になれるかどうか、最初の二年間は文部省が指導すると
いうことでしょう。
◆安城キャンパスの整備
一九五二(昭和二七)年度になると、教員や講座が増えたため、安城キャンパス内の愛知学
芸大学附属安城中学校の校舎の移管を受け、事務部と新設講座が暫定的に入りました。またこ
の年には、正門から見て右側に、木造二階建ての白い校舎二棟(一号館、二号館)が建築され、
農学科と畜産学科の研究室がここに移りました。やがて愛知学芸大学安城分校の移転が完了し



## 建築中の農学部新校舎



## 農学部本館とその前庭

政策学者、戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農学部を	でした。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長(植民	設置の条件としてあげられていた研究図書の整備も、学部存立の根幹にかかわる大きな課題	<b>キャンパス内の構造・景観が劇的に変わるようなことはなかったようです。</b>
<ul> <li>●実習・実験施設の必要でした。農学部創設にあたり、それらの施設は用意されましたが、多くは借用実験施設が必要でした。</li> <li>●実習・実験施設の充実</li> <li>○○冊もの農学部創設にあたり、それらの施設は用意されましたが、多くは借用</li> <li>○○冊もの農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです。この</li> </ul>	<ul> <li>□○○冊もの農学研究文献に愛城市などからの提供を受け、五四年には文 </li> <li>□○○冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保 </li> <li>□○○冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保 </li> <li>○○冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保 </li> </ul>	は、安城キャンパスの隣接地に安城市などからの提供を受け、五四年には文部省 る、戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農 る、戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農 これについては、思いがけぬ所から解決しました。康京大学の矢内原忠雄総長 これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長	○○○冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保されについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長る、戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた」が名大農でもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実したでもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実したをもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実したをもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実したのです。
○○○冊もの農学研究文献に愛知県かられることになりました。○○○冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保でもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実にもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実のが必要でした。農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったの	▲、戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名で、東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったので、東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったので、東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのでもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実にもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実のが必要でした。	○○○冊もの農学部創設にあたり、それらの施設は用意されましたが、多く のが必要でした。農学部創設にあたり、それらの施設は用意されましたが、多く これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長 これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長	○○○冊もの農学部創設にあたり、それらの施設は用意されましたが、多くこれについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長の条件としてあげられていた研究図書の整備も、学部存立の根幹にかかわる大きのが必要でした。農学部創設にあたり、それらの施設は用意されましたが、多くでもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実したでもそうでした。農学部創設にあたり、それらの施設は用意されましたが、多く副設後にその本格的な確保がはかられることになりました。
それらの施設は用意されましたが、学部には、研究にも教育にも、充実	で一度は東京帝大を追われた)が名で一度は東京帝大を追われた)が名で一度は東京帝大を追われた)が名	それらの施設は用意されましたが、多くで一度は東京帝大を追われた)が名大農学部の蔵書は確保され、学部には、研究にも教育にも、充実した	それらの施設は用意されましたが、多く それらの施設は用意されましたが、多く
現在でもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実した忠方五〇〇〇冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保された。	現在でもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実した忠方五〇〇〇冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保された。 た。	現在でもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実した策学者、戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農策学者、戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農東習・実験施設の充実とした。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長した。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長	現在でもそうでしょうが、とりわけ当時の農学部には、研究にも教育にも、充実した、これについては、思いがけぬ所から解決しました。東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです方五〇〇〇冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保された。 案習・実験施設の充実 た。
○○○冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保された○○○冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保された際、東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです。	<b>実習・実験施設の充実</b> 案習・実験施設の充実	実習・実験施設の充実 とた。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長した。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長した。	実習・実験施設の充実
た。 た。	た。た。	た。 た。 た。	た。 た。 た。 た。 た。 にておげられていた研究図書の の と た。 に た の の 供 の の の の の の の の の の の の の の の の
た。 万五〇〇〇冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保された際、東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです。	た。 方五〇〇〇冊もの農学研究文献に愛知県からの寄贈を加え、農学部の蔵書は確保されたれた際、東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです。策学者、戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農学	た。たからのは、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の朱空原忠雄総長した。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東大学の朱内原忠雄総長した。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の朱内原忠雄総長	た。 た。 た。 これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長 した。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長 した。これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長 設置の条件としてあげられていた研究図書の整備も、学部存立の根幹にかかわる大き
豊学部の蔵書は確保された	●会申し出があったのです。	● 一般学部の蔵書は確保され の一般学部の蔵書は確保され の一般学校の一般学校の の一般学校の の一般学校の の一般学校の の の の の の の の の の の の の の の の の の の	9る申し出があったのです 中大を追われた)が名大農 東京大学の矢内原忠雄総長
東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです。	東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです。戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農学	東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長	東大農学部の図書整理で出てきた重複文献を提供する申し出があったのです戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長衆件としてあげられていた研究図書の整備も、学部存立の根幹にかかわる大き
	戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)	戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長	戦前期にはいわゆる「矢内原事件」で一度は東京帝大を追われた)が名大農これについては、思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長衆件としてあげられていた研究図書の整備も、学部存立の根幹にかかわる大き
思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長れていた研究図書の整備も、学部存立の根幹にかかわる大きが劇的に変わるようなことはなかったようです。	か	キャンパス内の構造・景観が劇的に変わるようなことはなかったようです。	
思いがけぬ所から解決しました。東京大学の矢内原忠雄総長れていた研究図書の整備も、学部存立の根幹にかかわる大きが劇的に変わるようなことはなかったようです。その後、校舎の改造や増築、実験施設の増加などはありまし	かと	キャンパス内の構造・景観が劇的に変わるようなことはなかったようです。部のものとなったのです。その後、校舎の改造や増築、実験施設の増加などはありましたが、	のものとなったのです。その後、校舎の改造や増築、

草創期の農学部と安城キャンパス

ずつですが講座は増え、一九六五年には林産学科が設置され、東山移転時には五学科二五講座	四学科四講座でスタートした農学部も、その後毎年のように講座が充実し、一九五五(昭和	◆講座・スタッフの拡充		(旧大学院生命農学研究科附属演習林)として、同林野約一四四万㎡の地上権を持っています。	間の地上権を取得しました。現在でも名大は、フィールド教育支援センター稲武フィールド	者が一定の割合で分けることを言います。名大はこの契約で、約一六五万㎡の林野の、六○年	収契約とは、土地所有者(地主)と立木所有者(経営者)が異なり、そこから上がる収益を両	が管理する部落有林を、分収契約によって演習林として使用することになりました。林野の分	が難しい施設でもありました。そこで一九五五年、	演習林は、林学科の教育・研究に不可欠なものですが、広大な林野が必要とされるため、十	キャンパスになっています。	農場は、広さを生かして機械化農業の実験施設となりました。現在は愛知県立豊川工業高校の	○)年に農学部の講座が省令化された時には四四学科四講座でスタートした農学部も、その後期で、「なっています。 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たの割合で分けることを言います。」 「たので、そ
		学科四講座でスタートした農学部も、その後毎年のように講座が充実し、一九五五	科四講座でスタートした農学部も、その後毎年のように講座が充実し、一九五五・スタッフの拡充	科四講座でスタートした農学部も、その後毎年のように講座が充実し、一九五五・スタッフの拡充	学科四講座でスタートした農学部も、その後座・スタッフの拡充人学院生命農学研究科附属演習林)として、	四学科四講座でスタートした農学部も、その後講座・スタッフの拡充	四学科四講座でスタートした農学部も、その後講座・スタッフの拡充	四学科四講座でスタートした農学部も、その後講座・スタッフの拡充	四学科四講座でスタートした農学部も、その後に学校の書店でスタートした農学部を、その後によって演習林を取得しました。現在でも名大は、マロ大学院生命農学研究科附属演習林として、日大学院生命農学研究科附属演習林	四学科四講座でスタートした農学部も、その後講座・スタッフの拡充	四学科四講座でスタートした農学部も、その後調座・スタッフの拡充	四学科四講座でスタートした農学部も、その後 西学科四講座でスタートした農学部も、その後	三〇)年に農学部の講座が省令化された時には四学科二一講座となっていました。以後、少し
<ul> <li>■三〇)年に農学部の講座が省令化された時には四学科二一講座となっていました。以後、少し</li> <li>三〇)年に農学部の講座が省令化された時には四学科二一講座となっていました。以後、少し</li> <li>●講座・スタッフの拡充</li> <li>●講座・スタッフの拡充</li> </ul>	<b>講座・スタッフの拡充</b> 講座・スタッフの拡充	場は、広さを生かして機械化農業の実験施設と場は、広さを生かして機械化農業の実験施設と	旧大学院生命農学研究科附属演習林)として、海習林は、林学科の教育・研究に不可欠なもの演習林は、林学科の教育・研究に不可欠なものの地上権を取得しました。現在でも名大は、マの地上権を取得しました。現在でも名大は、	の地上権を取得しました。現在でも名大は、フィールド教育支援センター稲武フィが一定の割合で分けることを言います。そこで一九五五年、愛知県北設楽郡稲武町内の海習林は、林学科の教育・研究に不可欠なものですが、広大な林野が必要とされるたャンパスになっています。	この割合で分けることを言います。名大はこの契約で、約一六五万㎡の林野の、こは、土地所有者(地主)と立木所有者(経営者)が異なり、そこから上がる収益が難しい施設でもありました。そこで一九五五年、愛知県北設楽郡稲武町内のこは、林学科の教育・研究に不可欠なものですが、広大な林野が必要とされるたスになっています。	はるがはス広	るがはス広部難、にさ	がは、広な難	はス広さ	スになっています。広さを生かして機械化農業の実験施設となりました。	広さを生かして機械化農業の実験施設となりました。		にあった教養部が名古屋へ移転となったので、その土地と施設を利用したものです。この豊川
<ul> <li>○)年に農学部の講座が省令化された時には四○)年に農学部の講座が省令化された時には四学科四講座でスタートした農学部も、その後</li> </ul>	講座・スタッフの拡充 講座・スタッフの拡充	旧大学院生命農学研究科附属演習林)として、 り、たちを生かして機械化農業の実験施設と 場は、広さを生かして機械化農業の実験施設と な整備が難しい施設でもありました。そこで一 な整備が難しい施設でもありました。そこで一 な整備が難しい施設でもありました。そこで一 な整備が難しい施設でもありました。そこで一 にての割合で分けることを言います。名大は、つ の地上権を取得しました。現在でも名大は、つ	旧大学院生命農学研究科附属演習林)として、海習林は、広さを生かして機械化農業の実験施設と場は、広さを生かして機械化農業の実験施設となっています。 が一定の割合で分けることを言います。名大は、つの地上権を取得しました。現在でも名大は、つの地合で分けることを言います。 の地上権を取得しました。現在でも名大は、つ	の地上権を取得しました。現在でも名大は、フィールド教育支援センター稲武フィが一定の割合で分けることを言います。そこで一九五五年、愛知県北設楽郡稲武町内のな整備が難しい施設でもありました。そこで一九五五年、愛知県北設楽郡稲武町内のな整備が難しい施設でもありました。そこで一九五五年、愛知県北設楽郡稲武町内のな整備が難しい施設でもありました。そこで一九五五年、愛知県北設楽郡稲武町内のな整備が難しい施設でもありました。そこで一九五五年、愛知県北設楽郡稲武町内のな整備が難しいた。とを言います。名大はこの契約で、約一六五万㎡の林野の、多った教養部が名古屋へ移転となったので、その土地と施設を利用したものです。こ	この割合で分けることを言います。名大はこの契約で、約一六五万㎡の林野の、14、土地所有者(地主)と立木所有者(経営者)が異なり、そこから上がる収14、林学科の教育・研究に不可欠なものですが、広大な林野が必要とされるたこは、杜学和の教育・研究に不可欠なものですが、広大な林野が必要とされるたこになっています。 20割合で分けることを言います。そこで一九五五年、愛知県北設楽郡稲武町内の14、土地所有者(地主)と立木所有者(経営者)が異なり、そこから上がる収益した。林学科の教育・研究に不可欠なものです。 これなっています。これなるためで、その土地と施設を利用したものです。こ	はるがはス広教	るがはス広教部 難、にさ 養	ば な 広 教 難 、 に さ 養	は、広教	スになっています。広さを生かして機械化農業の実験施設となりました。	広さを生かして機械化農業の実験施設となりました。	あった教養部が名古屋へ移転となったので、その土地と施設を利用したものです。	豊川市に約一三万二〇〇〇。留の農場を確保しました。これは、

•29



技官・事務官の数も同様の推移で、七〇人前後でしたが、

人を超えました。その後も一〇〇人前後です。スタッフの

から一六〇人、六三年以後は二〇〇人前後というところでした。

初期のスタッフ。前列右が増井清初代学部長、 前列中が雨宮育作第三代学部長。

総数では、一九六二年までは一五〇〇十二、二年に大幅に捕充され一〇〇十二、大でそれが一段落すると増加しました。ただそれが一段落すると増加しました。ただそれが一段落すると増加しました。ただそれが一段落すると増加しました。ただそれが一段落すると増加しました。ただそれが一段落すると増加しました。ただそれが一段落すると増加した。
--

## ◆大学院農学研究科の設置

同じで、 名古屋大学に新制大学院が設けられたの 四九年に入学した新制第 期生が卒業する年度に合わせたものでした。ただし、農学 は \_\_\_\_ 九 五三年度からです。これ は にほか の国立大学と

<b>皮</b> です。医学部は、修業年限が他学部より二年長い した。専攻の設置のあり方をめぐって、文部省と農 した。専攻の設置のあり方をめぐって、文部省と農 した。専攻の設置のあり方をめぐって、文部省と農 した。専攻の設置が認められ、七月一日に名古屋大 れぞれ専攻の設置が認められ、七月一日に名古屋大 れぞれ専攻の設置が認められ、七月一日に名古屋大 れぞれ専攻の設置が認められ、七月一日に名古屋大 れぞれ専攻の設置が認められ、七月一日に名古屋大 たろれません。
行が正式に発足しました。
成寺代の宦重よ、
んでしたが、卒業者数で見ると一番多い年でも八四人で、定員を大幅に割っています。特に第
一回と第二回の卒業生は、それぞれ二一人、二六人という少なさです。安城時代には、全部で
約七〇〇人の学生が農学部を卒業しました。

一九五八年のデータによると、当時の名大農学部は、本来は他学部を第一志望にしていて、
第二志望で入学して来る者の割合が教育学部の次に高く、入試に合格しながら入学しない者の
割合が最も高い学部でした。さらに入学した後も、転学部や他大学への編入学を望む者が少な
くありませんでした。
また教養課程を終えたあとは、農学部の学生だけが名古屋市を離れ、見知らぬ安城へ行かな
ければなりません。最初から分かっていることとはいっても、不安な気持ちになる学生もあっ
たはずです。
一九五八(昭和三三)年、のちに学生部次長となる牧島久雄教養部助教授は、独自に農学部
新入生を対象にしたガイダンスを実施しましたが、その一環として安城キャンパスの見学会を
企画しています。その日一日、新入生にキャンパス全般を開放するというもので、好評を博し
たようですが、それだけ学生の不安が強かったことも示しています。
また、現在の名大農学部は約七割の学生が大学院に進学しますが、安城時代においては進学
者はむしろ少数派でした。だいたい一割から二割程度で、東山移転に近くになってようやく本
格的に増加し始め、直前の段階で五割程度になりました。全体としてみれば、安城キャンパス
の学生の多くは学部生であったといえます。